4課

7月23日

金細工職人の顔を見る

安息日午後 7月16日

暗唱聖句

わたしたちはみな、顔おおいなしに、主の栄光を鏡に映すように見つつ、栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられていく。これは霊なる主の働きによるのである。（2コリント3：18、口語訳）

わたしたちは皆、顔の覆いを除かれて、鏡のように主の栄光を映し出しながら、栄光から栄光へと、主と同じ姿に造りかえられていきます。これは主の霊の働きによることです。（2コリント3：18、新共同訳）

今週の聖句

マタイ5：16、1コリント4：9、エフェソ3：10、ヨブ記23：1～10、マタイ25：1～12、ダニエル12：1～10、エフェソ4：11～16

今週のテーマ

エイミー・カーマイケルは子どもたちをインドの伝統的な金細工職人のところに連れていきました。炭の火の真ん中に曲がった屋根瓦が置かれ、その瓦の上に、塩、タマリンドの実、そしてレンガの粉を混ぜた物が載っており、その混合物の中に金が置かれていました。混合物が火によって溶けるとき、金が純粋になります。金細工職人は火ばさみで金を取り出し、精錬が十分でなければ、金をもう一度新しい混合物の火の中に置きます。しかし、金が置き換えられるたびに火の温度が上げられます。子どもたちが質問しました。「金が精錬されたかどうかはどうしてわかるんですか」。金細工職人は答えました。「わしの顔が金に映った時じゃよ」（エイミー・カーマイケル『金について学ぶ』50ページ、英文）。

神は私たちを清め、金のように精錬し、神のみかたちに変えたいと望んでおられます。それは驚くべきゴールです。そしてさらに驚くべきは、キリストのような品性は、私たちの人生の数々の試練を通してのみ形づくられるということです。

今週のポイント

清めの過程において、苦しみはどのような役割を果たしますか。このことを大争闘という文脈の中でどのように理解すべきでしょうか。

日曜日　7月17日　神のみかたちに

「神は前もって知っておられた者たちを、御子の姿に似たものにしようとあらかじめ定められました。それは、御子が多くの兄弟の中で長子となられるためです」（ロマ8：29）。

初めに、神は私たちを神のみかたちにかたどってお造りになりました（創1：27）。しかし、その姿は罪によって損なわれました。

問1　神のみかたちは、今や人間の中にどのように損なわれた姿で残っていますか。

私たちは皆、罪に汚れていることは明らかです（ロマ3：10～19）。しかし神の切なる望みは、私たちを創造当初の姿に回復することです。この事実は今日の聖句にも当てはまります。それは、人生を聖霊にゆだねる人々が「御子の姿に似たもの」（同8：29）になるという神のご計画を示すものです。

しかし、このことにはもう一つの側面があります。「神のみかたちが人間のうちに再現されるのである。神の栄え、キリストの栄光は、神の民の品性の完成に含まれている」（『希望への光』1029ページ、『各時代の希望』下巻157ページ）。

問2　上記の引用文の中で、エレン・ホワイトが述べていることをあなたはどのように理解しますか（ヨブ1章、マタ5：16、1コリ4：9、エフェ3：10参照）。

クリスチャンとして、私たちは宇宙的なドラマのただ中にいることを決して忘れてはなりません。キリストとサタンの間の大争闘は、私たちを取り巻くすべてに見られます。この闘いはさまざまな形を取り、さまざまな方法で展開されています。その多くは隠されていますが、私たちはキリストに従う者として、その闘いの存在を知ることができます。私たちにはこのドラマの中で果たすべき役割が与えられており、私たちの生活を通してキリストに栄光を現すことができるのです。

巨大な競技場のフィールドにいることを想像してください。観客席の一方には主に忠実な天の住人たちが、反対側にはルシファーと共に堕落した者たちがいます。そこであなたの過去24時間の生活が再現されたとしたら、どちら側から歓声が上がるでしょうか。

戦いに参加していたとしても、戦っている敵が見えるとは限りません。ある意味において、これは私たちクリスチャンが直面している問題です。私たちはその敵の存在を知っており、生活の中にそれを感じます。しかしなお、私たちは、「目に見えない方」（ヘブ11：27）を信頼する信仰によって前進しなければならないのです。

問3　ヨブ23：1～10を読んでください。ヨブの葛藤の本質は何でしたか。彼は何を見ることができませんでしたか。同時に、すべての試練の中にあって、信仰によって何を受け入れましたか。

恐ろしい試みのただ中あってなお、ヨブは主に信頼しました。彼の身に起きたすべてのことにもかかわらず、ヨブは耐える決意をしました。彼を耐えさせていたものの一つは金でした。と言っても、金メダルではありません。それは、彼が神を手放さない限りより良いものになること、金のようになることを彼は知っており、未来にそれを見ていたのでした。ヨブが背後で起きていたことについてどれほど知っていたのか、あるいはどれほどのことが隠されていたか、私たちにはわかりません。いずれにしても、彼は精錬の火に耐えたのです。

あなたは火を恐れていますか。それとも火から生じる熱が心配ですか。おそらくヨブが経験したように、神の試練は説明できないでしょう。それは新しい仕事や新しい家庭に慣れることの困難であり、仕事上の、あるいは家庭でのひどい扱いに耐えることかもしれません。また病気や経済的損失であるかもしれません。たとえ理解できなくとも、神はそれらの試練を通してあなたを精錬し、清め、あなたの品性を神のみかたちに似たものとすることがおできになるのです。

金であることが証明されることは、ヨブにとって励み、あるいは目標となり、試練を耐え抜く助けとなったことでしょう。彼が痛みと苦しみの中に、清めの過程の現実を感じ取ることができたこと自体が、すでに彼の品性を強力に証ししていると言えます。そしてそのうえ、理解できないことがどれほど多くとも、彼はそれらの試練が彼を清めることを知っていたのです。

あなたは試練による精錬と清めをどのように経験しましたか。苦しむことを通して以外にあなたが精錬される方法があったと思いますか。

火曜日　7月19日　イエスの最後の言葉

イエスは死を目前にしてエルサレムにおられました。マタイによる福音書によれば、過越祭を前にしてイエスが弟子たちに語った最後の教えには、「十人のおとめ」や「羊と山羊」といったたとえが含まれていました。これらは、来るべきイエスを待つ者として私たちがどのように生きるべきかについて教えています。イエスの再臨の前兆があちこちに現れている今日、これらのたとえの意義はかつてないほど重要になっています。

多くの注解者が、「十人のおとめ」のたとえ（マタ25：1～12）に出てくる「油」は聖霊を表していると指摘しています。エレン・ホワイトもこれに賛同していますが、「油」は同時に品性をも象徴しており、それはだれもその人に代わって手に入れることができないものであると言っています。

問4　上記のたとえを読んでください。油を聖霊の象徴と考えるか、品性と考えるかによって、たとえの意味はどのように変わりますか。それぞれの場合、あなたにとってどのような意味を持っているのか考えてください。

聖霊 _____

品性 _____

問5　マタイ25：31～46の羊と山羊のたとえを読んでください。羊と山羊を分ける基準は何ですか。

王が彼らの行いと品性によって羊と山羊を分けていることに注意してください。イエスはここで行いによる救いについて教えているのではありません。しかし救いの計画にとって品性の発達がどれほど重要であるか、そしてキリストによって真に救われている者たちが、その救いを彼らの生き方と品性の中にいかに反映されるかについて知ることができます。

「品性とはその人が陰でどのような人間であるかである」と言われます。だれも見ていない時のあなたはどのような人間でしょうか。その答えから、あなたは何を変える必要があるでしょうか。

水曜日　7月20日　「目覚めた人々」

昨日私たちは再臨を待ち望む者たちにとっての品性の重要さについて学びました。今日は、さらに、特に生きてイエスの再臨を迎える者たちにとっての品性の重要性に焦点を当てます。

問6　ダニエル12：1～10を読んでください。この部分はどのような文脈で書かれ、地上の歴史のどの時代について述べていますか。これらの聖句は、逆らう者と対比して、その時代に生きる神の民の品性の特徴をどのように描写していますか（黙22：11参照）。

ダニエルは、イエスが来られる直前には、かつてなかったほどの悩みの時が来ると告げられます。ダニエル12：3、10には、この時代に生きる正しい人々と逆らう者が描かれていますが、「逆らう者はなお逆ら」（ダニ12：10）い、対照的に3節の正しい人々は明るく輝くことに注目してください。それはおそらく、彼らが「国が始まって以来、かつてなかったほどの苦難が」（同12：1）続いた時代に「清められ、白くされ、練られ」（同12：10）ていたからでしょう。「逆らう者はだれも悟らないが、目覚めた人々は悟る」（同12：10）こともまた対照的です。

彼らは何を悟るのでしょうか。数学や科学、それとも高等批評でしょうか。箴言は、「主を畏れることは知恵の初め」（箴言1：7）であると言います。この文脈で考えれば、「目覚めた人々」（口語訳「賢い者」）が悟ることができるのは、彼らが最終の出来事、悩みの時の到来についての知識を持っているからです。彼らは偶然ではなく、御言葉の研究によってその時の到来を知ります。最も重要なことは、彼らはこの悩みの時が彼らを清め、精錬するために許されることをよく知っていますが、逆らう者たちはその間、反抗の精神がさらに頑なにされるだけで、その結果、彼らは逆らい続けるということです。

ここに、精錬され、清められる過程を耐え抜いた人々の姿が描かれているということは、私たちにとって重要なことです。

私たちは、これらの聖句を終末時代という文脈の中で学んできましたが、ここに、現代に生きる私たちにとっても、清め、精錬する過程をもっとよく理解する助けとなるどのような原則がありますか。

木曜日　7月21日　品性と共同体

次のような歌詞の歌があります。「私は岩、私は島」。あなたは、1人でいたいと感じたことはありますか。「私と神との間のことは個人的なことですから話したくありません」と誰かが言うのを聞いたことはありますか。

問7　エフェソ4：11～16を読んでください。パウロはここで何について述べていますか。彼は共同体に対してどのような役割を与えていますか。

パウロがエフェソの信徒に、教会は一つの体であると書いています。イエスが頭であり、残りの部分は神の民が作り上げているというのです。エフェソ4：13を見ると、このような共同体の中で生きる究極の目的は、「キリストの満ちあふれる豊かさになるまで成長する」ことであることに気づくでしょう。そして、そのために私たちは互いを必要とするのです。

確かに、クリスチャンが皆1人でいることは可能です。実際、数世紀にわたって、中傷や迫害に遭った多くの人々は、しばしば孤立を余儀なくされました。周囲の圧力に屈しないということは、神の力の力強い証しです。しかしながら、それが真実である一方で、パウロは重大な真理を強調しようとしています。すなわち、究極の意味において、私たちは互いに協力して交わりを持つときに、キリストの豊かさを経験し、表すことができるということです。

問8　エフェソ4：16でパウロは、クリスチャン共同体においてキリストの豊かさが表れる前に、何が起きなければならないと言っていますか。

問9　共同体がキリストの豊かさを表すことは、個人としてキリストの豊かさを表すこととどのように違うのでしょうか。このことは大争闘という文脈の中でどのような意味を持つのでしょうか。

あなたが知らない人に親切であることは簡単なことですが、よく知っている人や、あなたが好きでない人に親切にすることはより難しいことです。このような人々に優しく親切であるなら、これこそが神の真理の動かしがたい証しとなるのです。

金曜日　7月22日　さらなる研究

参考資料として、『キリストの実物教訓』第29章「花婿を迎える準備」、『各時代の大争闘』第39章「大いなる悩みの時」を読んでください。

「品性を築くことは、人類に任された最もたいせつな働きであって、今日ほどこれについて熱心に研究しなければならない時はかつてなかった。これほど重大な問題に当面した時代はこれまでになく、また青年男女が 今日ほど大きな危機に直面したこともかつてないことであった」(『教育』266ページ)。

「このたとえの中で、愚かなおとめたちは、油を願い求めても、それを彼らの願い通りに受けることができないことを表している。これは危機の時に立つための品性を養うことによって準備していなかった者たちを象徴している。彼らはまるで、隣人のところに行って、あなたの品性を私にください。さもないと、私は滅びてしまいますと言うようなものである。賢い者たちが彼らの油を愚かなおとめたちの消えそうなランプに分け与えることはできなかったように、品性を受け渡すことはできない。それは買うことも売ることもできない。それは身に着けねばならない。神は1人ひとりに、試練の時を通して正しい品性を手に入れる機会は与えられたが、1人の人が他の人に自分の品性を分け与える方法を与えてはおられない。彼はその品性を、困難を耐え抜くことを通して養い、偉大な教師から教訓を学ぶことによって得たので、試練の時にも忍耐を示すことができ、信仰を実践したので不可能という山を動かすことができるのである」(『ユース・インストラクター』1896年6月16日号、英文)。

話し合いのための質問

❶「品性を養う」とは何を意味するのでしょうか。品性の形成はあなたの生活、あるいはあなたの教会で、どれほど重要なこととして実践されていますか。

❷ 木曜日にクリスチャン人生における共同体の重要さについて学びましたが、あなたの教会はキリストの体としてどれほど機能しているでしょうか。

❸ 私たちは、イエスにある信仰のみによって救われているのに、なぜ品性の形成は大切なのでしょうか。キリストの義と完全な品性が私たちを救うとすれば、品性の形成はなぜ必要なのでしょうか。

❹ ヘレン・ケラーは、「品性は安逸と平穏のうちには養われない。試練と苦しみを通してのみ、魂は強められ、幻は明確になり、大志は鼓舞され、成功は達成される」(『リーダーシップ』第17巻4番、英文)と書きました。品性と苦しみ、そして大争闘との関係について話し合いましょう。

バプテスマ式に乱入

悪霊たちは、ジュニオールにバプテスマを受けさせまいと必死でしたが、バプテスマクラスで学ぶ彼の思いはますます強くなりました。ついに彼は、クリファーソンの家で初めて聖書を開いてから1年後の10月29日にバプテスマを受けることになりました。

式の当日、「俺は行かない。寺院まで送ってくれ」というエドゥアルドの言葉を聞いたオリベイラは、夫がカンドンブレの寺院から祭服をまとって教会に来るかもしれないと心配になりました。

ジュニオールが式の直前に証しをし、バプテスマ槽に入って会衆のほうを向いたその時、祭服を着た父が会堂に入って来ました。取り乱した母は、「彼が来たわ。来ないと言っていたのに」と泣きながら言いました。

参列者は一斉に会堂の後方のドアを見ました。母は黙って祈り、父の仕事を知っている教会員も祈り、他の人々は祭服姿のエドゥアルドを驚いて見ていました。しかし、誰も追い帰そうとはしませんでした。執事のロベルトが父に近づき、「ようこそ、エドゥアルド！　待っていましたよ。さあ、こちらへどうぞ！」と、バプテスマ槽の近くに案内してくれました。そこでエドゥアルドは、ジュニオールがバプテスマを受けるのを見届けました。

ジュニオールの頭の中をさまざまな思いが巡りました。「神様がすべてを計画されているんだ。ぼくがバプテスマ槽に入るのと同時にパパが到着した。神様の計画は完璧だ！」

水から上がったジュニオールは、ずぶ濡れのままでエドゥアルドに抱きつきました。「パパ、宗教は違うけど、ぼくはパパのことが大好きだよ」。そして、参列者に向けて言いました。「みなさん、ここにいてくださってありがとうございます。でも、何よりもここにいてくれている父に感謝します」

父も息子に語りかけました。「ジュニオール、私はお前の宗教を受け入れるよ。パパは今までずっとお前をカンドンブレからも遠ざけてきたし、お前にはどんな宗教にも関わって欲しくなかった。でも、今、超自然的な力をすごく感じるんだ。ジュニオールの宗教を受け入れるよ」

その後、一家が車に乗り込むと、エドゥアルドは、「ここはとてもいい所だ。みんなとてもいい人たちだな」と言い、喜びました。（アンドリュー・マクチェスニー）